

はーとるるメッセーヅ

2009

特選作品紹介
第6回

学年は
応募時の
ものです

ポスター・小学生の部

作文・小学生の部

ぼくの自まんの両親

西崎 将さん(城陽小学校5年)

「おーい、いーはんできたぞー。」
と、父さんの声がする。ぼくはいつもこの声を待っている。母さんは仕事で帰りがおそい。だから、ぼくの家では、毎ばん父さんが夜ごはんを作ってくれる。

父さんは車を作る仕事をしている。去年まで仕事のついでで、兵庫で一人暮らしをしていた。家事は何でもできる。だから、ぼくに任せて、父さんが家事をするのは、当たり前のことのように感じていた。

父さんは、家族のために仕事に行っている。仕事から帰るとぼくたち家族のためにご飯を作ってくれる。他にも洗たく、皿洗いなども全部父さんがやってくれる。

母さんは、毎日おそくまで働いてい

る。毎日九時半に帰ってくる。仕事が早くおわるとうい飯をつくってくれる。休みの日には、どこかにつれていってくれる。

人は見えないところでがんばっている。父さんや母さんは会社でつらい仕事をがんばっている。ぼくたちが知らないだけ。

考えてみると、父さんも母さんも休み時間がないのだ。この事を知ると、何もしていない自分がなさげなくなってきた。

ぼくがやれることは何か。父さん、母さん家族のためにやれることは何かそんなことを考えた。

父さんと母さんとぼくの一日に使える自由時間を考えると、ぼくが九時間、母さんは六時間、父さんは四時間だった。

この九時間でぼくは何ができるだろう。九時間あれば、遊ぶこともできる。宿題もおひるも終わらせる。自分のことだけでなく、家族のためにできることはないだろうか。

ぼくは、五年生になって、家庭科の学習をした。かんたんな調理やさいほうができるようになった。父さんの代

わりに夜ごはんを作ったり、おひるをわかしたりできるはずだ。

今、母さんのように女性の社会進出が進み、昔と比べると女の人も社会に出て働くようになった。けれども、家事については、まだまだ女性がやることだと思われているのではないだろうか。友達に聞いてみても、やはり母親がやる人が多いらしい。父親がやることは少ないらしく、あるとしても、母親に何らかの事情がない限り、父親はやらないのだそうだ。

だから、当たり前のように家事をしてくれる父さんは、ぼくの自まんである。仕事でいそがしい母さんを父さんが支えている。母さんもそんな父さんにすごく感謝していると思う。

ぼくも父さんや母さんには、すごく感謝している。父さんと母さんがいなかったら、ぼくは、今まで生きることができなかったかもしれないからだ。

ぼくはこれからは、父さんや母さんの役に立てるような人になりたい。そして、父さんのように、男だから女だからとか気にせず、まっすぐな人になっていきたい。

作文・小学生の部

ニコニコ顔の

ひいおばあちゃん

稲野 絢真さん(若葉小学校5年)

ぼくのひいおばあちゃんは、九十五才になります。自分の足で、歩くことはできません。ベッドの中で、ずっと寝てすごしています。今は訪問介護サービスをうけて、お風呂に入れてもらっています。最初は、知らない人にお風呂に入れてもらうのは、いやだったそうです。でも、自分の体をひとりではどうすることもできないので、今ではとても楽しみにしています。ありがたいことだと思っ

標語・一般の部

認めよう
一人一人の
差は個性

中野 威さん(日夏町)

標語・小学生の部

笑顔の下
かくれたサイン
受け止めて

原 賢士さん(佐和山小学校の6年)

ポスター・一般の部

支えよう
世界の
子どもたちを



野淵 令子さん(古沢町)

おばあちゃんと、少しでも長く過ごせるように、精一杯、ぼくがやれることをやっていきたいと思ひます。



選評

ひいおばあちゃんの笑顔を願う気持ちがよく表れています。ひいおばあちゃんにとっては、共通の話題でお話ができることが、何よりの楽しみなのでしょう。普段の何気ない会話でも、相手を笑顔にしようという心がけが家族の絆を深めます。家族の笑顔のために、今自分に何ができるかを考え、実行することの大切さを再認識させてくれます。

選評

感謝の気持ちを大切に、支え合いながら生活している温かい家族の姿が伝わってきます。男だから女だからといったことにとらわれないこと、家族の一員として自分が役に立てることを進んで行おうとする強い思いが感じられます。見えないところでもがんばって、感謝する心で大切に、「まっすぐな人」になってくれることを願ひます。



若林 美織さん(城西小学校5年)